かながわの水がめの歴史

神奈川県における水源開発は、戦後復興、高度経済成長などによる人口の急増や産業の集積による水需要の増大を背景として、大きな水不足を経験しながら行われてきました。

水没した地域の人々の理解と協力を得て完成した、４つのダム「かながわの水がめ」は、現在の渇水に強い神奈川を実現し、大きな役割を果たしています。

ここでは、この４つのダムを中心に県内の水源開発の歴史をご紹介します。

相模ダムの建設（相模川河水統制事業）

［堤高58.4m、堤長196.0m、有効貯水容量4,820万㎥］

建設前の風景（嵐山より）

相模湖

相模川河水統制事業は京浜地帯等の人口の増加や工業の進展に伴う水道用水、工業用水及び電力需要の増大、さらには食糧増産のための相模原における水田開発など、当時の社会的、経済的背景のもと昭和13年に計画されました。

この事業は、県が全国に先駆けて行った広域的な水源開発事業で、中核施設である相模ダムは、戦中戦後の激動の時代を乗り越え昭和22年に完成しました。

ダムによって生み出された相模湖の水は、相模発電所によって発電に利用されたのち、沼本ダムから取水され、津久井分水池より県営水道、横浜市及び川崎市の各水道事業者へ供給されています。

城山ダムの建設（相模川総合開発共同事業）

［堤高75.0m、堤長260.0m、有効貯水容量5,120万㎥］

建設前の風景（ダム地点下流より）

津久井湖

県内の水需要は、昭和30年代後半の高度経済成長期にはさらに著しく増加しました。こうした状況に対処するため、県、横浜市、川崎市及び横須賀市が共同して、城山ダムの建設を中心とする相模川総合開発共同事業が計画されました。

この事業では、相模ダムの下流に城山ダムを建設して洪水調節や発電を行うほか、串川と城山ダムを結ぶ水路を設け流入量の増大を図っています。

この事業により生み出された水は、上流の沼本ダムから取水され、県営水道及び川崎市へ供給するとともに、下流の寒川取水施設でも取水され、県営水道、横浜市及び横須賀市の各水道事業者へ供給されています。

三保ダムの建設（酒匂川総合開発事業）

［堤高95.0m、堤長587.7m、有効貯水容量5,450万㎥］

建設前の風景（ダム地点下流より）
※写真は撤去された東京電力の田ノ入調整池

丹沢湖と三保ダム

県内における水源開発は、もっぱら相模川水系に水源を求め、その開発を行ってきました。しかし、昭和40年代に入り、さらなる水需要の急激な増大に対して、初めて酒匂川水系に水源を求め、その開発に着手しました。これが酒匂川総合開発事業です。

この事業では、県、県内広域水道企業団及び東京発電(株)が、酒匂川水系河内川に中核施設である三保ダムを建設し、洪水調節、発電を行っています。

この事業により生み出された水は、飯泉取水施設から取水され、県営水道、横浜市、川崎市、横須賀市及び小田原市の各水道事業者へ供給されています。

宮ヶ瀬ダムの建設（宮ヶ瀬ダム建設事業）

［堤高156.0m、堤長375m、有効貯水容量1億8,300万㎥］

建設前の風景（ダム地点下流より）

宮ヶ瀬ダム

21世紀に向けて県民に水道水を安定的に供給するため、相模川水系中津川において国が水源開発を行いました。これが、宮ヶ瀬ダムを中核施設とする宮ヶ瀬ダム建設事業です。

この事業では、中津川に宮ヶ瀬ダムを建設し、洪水調節、発電を行っています。

宮ヶ瀬ダムは、既設ダム群の相模ダム、城山ダムと連携し、効率的に水を利用する総合運用を行っています。

この事業により生み出された水は、相模取水施設及び寒川取水施設から取水され、県営水道、横浜市、川崎市及び横須賀市の各水道事業者へ供給されています。

水道管埋設工事
（昭和９年頃）

津久井分水池

寒川取水施設

東京オリンピック
漕艇競技場（相模湖）

昭和42年渇水（相模湖）
（渇水により現れた湖底の枯木）

飯泉取水施設

平成7･8年度渇水（丹沢湖）

相模取水施設

人口100万人 到達（M35）
人口200万人 到達（S14）
人口400万人 到達（S38）
人口600万人 到達（S48）
人口800万人 到達（H3）
人口900万人 到達（H21）

明治

- 6年（1873）・横浜水道会社が多摩川を水源とした木樋水道を建設し給水開始
- 7年（1874）・木樋水道を県が引き継ぐ
- 16年（1883）・県が英国人技師バーマーに鉄管水道の設計調査を依頼
- 20年（1887）・県が相模川を水源とした鉄管水道を建設し給水開始（近代水道の始まり）
- 23年（1890）・横浜市営水道として給水開始
- 29年（1896）・水道条例制定により県から市へ移管・（旧）河川法制定

大正

- 41年（1908）・横須賀市営水道が給水開始
- 10年（1921）・川崎市営水道が給水開始

昭和

- 8年（1933）・県営水道が給水開始
- 13年（1938）・相模川河水統制事業を計画
- 18年（1943）・津久井分水池完成
- 22年（1947）・相模ダム完成（完成時の県の総人口約222万人）・カスリン台風
- 33年（1958）・相模川総合開発共同事業を計画・狩野川台風
- 39年（1964）・寒川取水施設完成・（新）河川法制定・東京オリンピック開催
- 40年（1965）・城山ダム完成（完成時の県の総人口約443万人）
- 42年（1967）・昭和42年渇水（最大42.5％の給水制限を実施）
- 44年（1969）・神奈川県内広域水道企業団設立・建設省が宮ヶ瀬ダム建設計画を発表
- 45年（1970）・酒匂川総合開発事業を計画
- 48年（1973）・飯泉取水施設完成
- 54年（1979）・三保ダム完成（完成時の県の総人口約675万人）

平成

- 8年（1996）・平成7年度冬季渇水（最大10％の給水制限を実施）
- 9年（1997）・河川法改正・相模取水施設完成・平成8年度夏季渇水（最大10％の給水制限を実施）
- 13年（2001）・宮ヶ瀬ダム完成（完成時の県の総人口約853万人）